

ただこの一事を努めている ビリビ .3.13

園長 児嶋 草次郎

新年あけまして、おめでとうございます。

昨年はコロナ禍の中、福祉関係の皆様を初め、学校の先生方、後援会・支援者の方々にしっかり守っていただき、子供たちは安心・安全の生活を維持することができました。ありがとうございました。コロナの状況ははまだ油断できず、今後もしっかり予防してまいります。今年も御指導・御支援、よろしくお願い致します。

ところで、平成 29 年 8 月に厚生労働省より出された「新しい社会的養育ビジョン」に対する要望書と 43,325 名の署名を 12 月 22 日、厚生労働省の佐藤英道副大臣に提出することができました。

この友愛通信において、皆様に何度も何度も署名の呼びかけを行ってまいりました。要望の内容は「ビジョン」の中に、乳幼児の施設への新規措置入所の停止や施設の滞在期間の制限（1 年以内等）が明記されていることに対して、その削減を求めるものでした。施設を否定する価値観がそのビジョンの底流に見られ、施設への入所を停止したり制限することで里親委託率を英米並に上げようとする政策は、非常に危険だと考え、皆様に要望書への賛同をお願いしてきたのです。

社会的養護の施設で生活する子供の数は全国で 4 万人ほどで、小さな世界ですが、一人ひとりの子供たちの未来がかかっており、黙ってそのまま従うわけにはいきませんでした。今、児童相談所における児童虐待相談件数は、年間 20 万件とされています。年々増加の傾向にあり、施設への入所を制限するようなことが今後始まれば、子供は行き場を失い、大混乱がおきるでしょう。とても里親さんだけで対応できる問題ではありません。今後は施設と里親さんが協力・連携し合って対応していく流れを作っていかなければならないのです。御協力いただいた全国の 43,325 人の皆様には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「子どもの未来を守る会」からは、叶原土筆氏（元全国自立支援施設協議会会長・元県立成徳学校校長）、藤野興一氏（元全国児童養護施設協議会会長・鳥取こども学園理事長）、菊池義昭氏（元東洋大学教授）と私の 4 名が出席（潮谷愛一氏は体調不良で欠席）し、石井記念友愛社側からは石井記念友愛社後援会会長の橋田和実氏、石井記念有隣園の園長の宮城博範氏が出席。また当事者の声をも届けるため、友愛園を卒業し、石井記念有隣園で働く小松愛沙美さん（社会福祉士）、石井記念仁愛の家で働く田中梨央奈さん（保育士）、鳥取こども学園卒園の井上典武さん（カナダの大学卒）も同席してくれました。

「ビジョン」は厚労省が作ったものではなく、「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」のメンバーたちが作ったものです。当時の厚労大臣が内閣改造で辞任する前日、強引に発表したという経緯もあります。児童養護施設や乳児院は、子供の生存権を守るため、児童福祉法で保障する施設です。本来新たな法律でも作らない限り、「入所停止」などという暴言は吐けないはずですが。しかし、黙っていれば、「検討会」メンバーたちは強引に持つていこうとするでしょう。「削除」に応じるとはもちろん思いませんでしたが、「おかしい」という声は届けておかねばなりません。これ

は反抗でもなんでもなく、一つのソーシャルアクションです。

厚労副大臣の答弁は誠意のこもったものでした。次のように答えられました。「施設の重要性は変わらない。このさきも否定できない。今後も支援に取り組んでいくことを約束する。」

この厚労副大臣への面会に御尽力くださいました国会議員の松下新平様、また大臣面会に立ち会っていただきました江藤拓議員（秘書）、長峰誠議員（秘書）に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

支援していただきました皆様に重ねて感謝申し上げますとともに、今後も社会的養護の子供たちの未来づくりに関心と御支援をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

私たちは、心を新たに、また日々の使命・役割・責任に粛々と取り組んでまいります。

（以下は、友愛園のクリスマス会での園長としての話です）

クリスマスおめでとうございます。先ほど、高3のみなみさんが聖書を読み、牧師の松井初先生がお話をしてくださいましたが、本当は昨日（25日）がキリストの誕生をお祝いする日でした。その前夜はクリスマスイヴと言って、友愛園では、石井十次先生のお墓まいりをする事になっています。中・高生のみんなは全員、夜8時過ぎにお参りし、1年の反省と新年への決意を述べました。何十年も続けている伝統行事です。一般にはクリスマス会と言ったら、色々演芸会をしたり、おいしいごちそうを食べたり、楽しい行事ということになっていると思いますが、友愛園の子供たちにとっては、この1年を反省する時でもあり、少々緊張感を持つ時ともなっております。

この1年、こうして園のみんなが無事にクリスマス会を迎えられたことを、まず感謝したいと思います。この2年間ほど、世界中がコロナ感染症に苦しめられて来ました。大勢の方が亡くなっています。児童養護施設にウイルスが侵入し、職員も子供たちも感染し、大騒ぎになったところもあります。友愛園では、今のところ防止できています。今、新しいオミクロン株が流行し始めており、油断はできません。無事にクリスマスを迎えられたのは、職員・子供たちの努力もありますが、支えてくださっている多くの国民の方々、関係機関の皆様、そして、支援者の皆様のおかげです。ここに感謝申し上げます。

さて、昨日、読売新聞を見ていたら、2021年、読者が選んだ日本10大ニュースというのが載っていました。第一位は何だと思えますか。第一位は、大谷翔平選手のメジャーMVPだそうです。MVPをもらったというのは、米大リーグの今季最優秀選手に選ばれたということです。大谷選手は、みんなも知っているように投打の「二刀流」で、投手として9勝をあげ、打者としては46本の本塁打を打ちました。「野球の神様」と呼ばれたベーブ・ルースの再来ではないかと言われています。日本政府は、国民栄誉賞を与えようとしたのですが、大谷選手は「まだ早い」と言って辞退したそうです。おそらくベーブ・ルース越えをねらっているのだらうと思います。とにかくすごい選手です。

大谷選手が日本で「日本ハムファイターズ」に所属していた頃のコーチであった白井一幸氏は、次のように彼のことを話しています（「日本講演新聞」12月20日付）

「彼はプロになる前から『世界一の選手になる』と決め『そのためには何が必要か？』を考えていました。」

「私が感心したのは、『世界一』の条件の一つに『運』と書いたことです。

『運』をよくするために彼は『うそを言わない』『ゴミを拾う』『あいさつをする』『感謝の気持ちを持つ』と書いていました。」

このゴミ拾いについて、白井コーチがほめると、大谷選手は次のように答えたそうです。

「白井さん、僕はごみじゃなくて、運を拾っているんですよ」。

大谷選手が「運」をよくするために「ごみを拾う」などと書いていたものが、みんなにも秋頃の反省会の時に配った「目標達成シート」です。大谷選手が高校1年生の時に書いたものでした。三友館の生活手帳の夢実現プログラムのようなものです。

「運」を獲得するために、この目標達成シートには8つの言葉が回りに書いてあります。ここに紹介します。「あいさつ」・「ゴミ拾い」・「部屋掃除」・「道具を大切に使う」・「審判さんへの態度」・「プラス思考」・「応援される人間になる」・「本を読む」。

またこのシートで「人間性」を高めるために努力すべきこととして書いてある8つの言葉もすばらしいもので、紹介します。「感性」・「愛される人間」・「計画性」・「思いやり」・「感謝」・「礼儀」・「信頼される人間」・「継続力」です。

これらの言葉は、すべて、この友愛園の生活においても必要なプラス思考から生み出される言葉です。

大谷選手は天才であるかもしれないけど、ただ自分の才能だけであそこまで伸びたわけではなく、その裏には、自分の運命を変えるための緻密なこのような努力があったのだということに、みんなは気付かねばなりません。

ここから話を変えて、このみんなの1年を反省します。1年は365日しかありません。石井十次先生の前で、「しっかり自己コントロールします」とそれぞれが誓っても、1か月2か月とたつうちに色んなトラブル・事件をおこしてしまいます。なぜだろうといつも考えます。みんなも、気づいた時には、失敗をしてしまっている自分の弱さを、情けなく思う時があると思います。

これも、明倫塾（12月12日）の時に中・高生のみんなには配ったものですが、田坂広志という人が「運気を磨く」という本の中で書かれていることを紹介します。

人間には意識の世界と無意識の世界とがあります。意識の世界とは、みんなの日常生活の世界です。会話し合ったり、ケンカしたり、勉強したりする中で、様々な思いや考えが浮びますが、その世界のことを意識の世界と言います。

一方無意識の世界とは、普段は自覚できていない世界のことです。この無意識の世界が、意識の世界にすごい影響を与えていると、田坂さんは言われます。過去のマイナスの体験が、その無意識の世界に住みついているそうです。不安、不満、怒り、自己否定など、昔経験したマイナス体験によって生まれたマイナスの感情がその無意識の世界に固着していて、時々、この日常生活の中で顔を出すそうです。

みんなは、普通の家庭で生活している子供たちに比べると、あきらかに過去にマイナス体験を多くして来ている。だから、この園生活の中でも、グチや不満となって時々顔を出すと自覚しなければなりません。マイナスの感情が無意識の世界から出て来ているのです。

そしたらどうすればよいのか。この田坂さんは無意識の世界を変える方法があると言われる。それは、1、「習慣を変える」、2、「解釈を変える」、3、「覚悟を決める」の三つだそうです。1の習慣を変えるが一番重要です。この習慣を変える方法にも三つあって、

①自然の浄化力に身をゆだねる。

②言葉の浄化力を活かす。

③心の中で和解する、です。

ここでさきほどの大谷選手の「目標達成シート」と重なっていきます。

①については自然との触れ合いですから、友愛園の生活そのものです。労作と呼んでいます、この大自然と触れ合い米を作ったり野菜を作ったりすることで、無意識の中のマイナス感情がいやされ、生活習慣が身についているということになります。

②が大谷選手の言葉とそのまま重なります。友愛園の生活は自分の運命を変えるためにあるとは常にみんなに話していることですが、大谷選手が目標達成シートに繰り返し書いて来たようなプラス思考の言葉をみんなも、日記や生活手帳の中に繰り返し書くとよい。感謝とかあいさつとか思いやりとかプラス思考から生まれる言葉です。言霊（ことだま）という言葉もありますが、日常生活の中でも、プラス思考、感謝に関する言葉は常に声を出して使うようにしていかなければなりません。

③の心の中で和解する以降については、ここでは省略しますが、親に対する気持ちを整理し直し、最終的には生んでくれたことに対する感謝の気持ちを持つようにもっていくということだけここでは話しておきます。

あと数日で新しい年となります。来年こそは、みんなにとって、自分の運命を変えることのできる年になるように期待します。